

2 貸出文庫用の図書はどのように充実されどんな配本をしたか

本館の今年度の努力事項の3本の柱の二番目に図書館資料の充実を打出しているが、館外奉仕部門においてもこのことは重要な努力目標の一つである。ブックモバイルの運営にしてもまた読書層の開拓や読書会の育成をはかるためにも、絶対的に必要なものはこの図書館資料であり、資料の充実如何が図書館活動の成果に及ぼす結果もまた甚大なものがある。

そこで、館外奉仕部門でも、特に貸出文庫用の分館配本図書、あるいはブックモバイル用図書または青少年巡回文庫用図書までにも、質と量の改善を施し、分館に対しては次のような合理的な配本を行なったので利用面における効果を高めるのに役立つている。

(1) 貸出文庫用図書の各分館配本状況

昨年までに、各分館200冊をそれぞれ送付したが送付回数も年2回程度に分け、一度に多量の配本をしたため新刊書の出版される時期と利用する時期とにズレが生じ、利用価値が著しく低下するという好ましくない傾向がおきてきた。それで今年度はできるだけブ

ックモバイルの巡回を利用し、巡回の都度50冊程度の新刊書を年5回位に分けて配本した結果、利用者からも大変喜ばれ、新刊書も魅力を増して利用価値を高めたばかりでなく、冊数においても昨年度より各分館50冊多く計250冊を配本した。しかし田島分館と相馬、平分館は、ブックモバイルの巡回の都合と農閑期を考慮し、年末に100冊を一度に送付せざるを得なかつた。また図書の内容についても極力各分館の利用状況を考慮に入れ、それぞれの地域の特色を生かした図書の選択を行なったので利用者からも期待されている。

(2) 貸出文庫の各分館利用状況(別表2参照)

この文庫の利用状況をみると、郡山分館が、利用人員3,575人、利用冊数、4,490冊で第1位を示し、利用団体数においても98団体で首位にある。2位白河、3位以下は若松、相馬、平、本館、田島分館の順である。本館が利用人員と冊数において下位にあるのは、昨年度の10月から貸出文庫の利用団体の大半がブックモバイルの利用団体に移行したためで、それまでは、本館が利用面においても毎年第1位を占めていた。

別表2 貸出文庫各分館利用状況

(A) 利用状況

区 別	館 別	本 館	郡山分館	会津若松分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館		計
貸付件数		25	98	46	79	45	75	42		410
貸付冊数		596	2,117	743	140	1,202	1,262	519		6,579
利用人員		209	3,575	667	955	1,273	572	669		7,920
利用延冊数		961	4,490	1,506	1,442	2,106	1,821	519		12,845

(B) 貸出先

貸付先別	館 別	本 館	郡山分館	会津若松分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
読書会		22	30	29	68	9	62	16	236	57.6
青年会			2		2	26	1	15	46	11.2
婦人会		3	30	3	4	8			48	11.7
公民館			4	5					9	2.1
官庁会社			32	9	5	2	12	11	71	17.4
計		25	98	46	79	45	75	42	410	100.0

(C) 性別

性別	館 別	本 館	郡山分館	会津若松分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
男		23	1,535	281	206	621	150	287	3,103	39.2
女		186	2,040	386	749	652	422	382	4,817	60.8
計		209	3,575	667	955	1,273	572	669	7,920	100.0